

## 自然史しづおか祭 2025

横山謙二



自然史しづおか祭 2025



発表者の話を聞く来館者

ふじのくに地球環境史ミュージアムの秋イベントとして、10月18日（土）～26日（日）にかけて、「自然史しづおか祭 2025」を開催しました。ふじミュー開館当初から毎年開催してきました「自然史しづおか祭」も、今年で第9回となりました。今年は25テーマの発表があり、これまで何度も発表しているサポートやNPOのメンバーに加え、県立磐田南高校、県立田方農業高等学校、静岡大学の学生、富士山縄文の学校、静岡野尻湖友の会、NPO法人桶ヶ谷沼を考える会、一般財団法人南アルプスみらい財団などの団体の発表もありました。また、第2回自然史しづおか祭 2018から、参加していただいている駿河一郎さんが、入院のため参加できなので、作製した標本だけでも展示してほしいとの要望をうけ、駿河さんの標本をあずかり、展示させていただきました。

今回、私自身の発表は、三保真崎海岸に漂着したクラゲノミ亜目の仲間に関する発表で、ずいぶんと力を入れたつもりでしたが、他のどの発表も、甲乙つけがたい研究や標本作製ばかりでした。実行委員としては、どの発表に優秀賞をだすか、とても悩まされました。

最終日のコアタイムでは、できる限り参加者の話を聞いて回り、それぞれの研



26日コアタイムの様子

究の理解を深めました。その結果、最終的に、優秀賞は静岡大学理学部生物科学科の山田幸之介さんの「富士山における植生モニタリング調査」、静岡県立磐田南高校の「静岡県中・西部沿岸で見られる暗褐色漂着軽石の特徴と起源の推定」、NPO法人桶ヶ谷沼を考える会「桶ヶ谷沼におけるベッコウトンボ保護増殖活動の紹介」の3つを表彰しました。

さて来年は、いよいよ第10回自然史しづおか祭 2026です。これまで以上の参加者が増えるように努力していきたいと思います。NPO会員の皆さんの中で、自然史に関する研究や活動について発表したいと考えている方は、NPO事務所まで連絡お願いします。